

リーディングDXスクール事業【AIパイロット校】

山形県立酒田光陵高等学校（山形県）【指定校】

<校務利用> ①進路指導における生成AIの活用

◆ 目的

進路指導における業務(特に志望理由書の添削業務)効率化と生徒の適切な生成AI利用推進

◆ 利用者

進路指導担当者・3年次生、AIモデルは指定しない

◆ 内容

- 進路活動における生成AIの利用場面を6パターン(利用者【生徒・教員】と使い道【生成・サポート・添削】)に分けそれぞれのメリットと懸念点を教員に明示した。
- どの場面で生成AIを利用するかを先生方で判断していただいたうえで、利用を促した。また、参考となるプロンプト例もあわせて配布した。

志望理由書等への生成AIの活用について

生成AI利用場面とメリット・デメリット

生徒にプロンプトを配布し、生徒自身が繰り返し活用しながらブラッシュアップに利用する

教員がプロンプトを利用し、生徒へのアドバイスに利用する

生成AIの使い道	生徒が利用	教員が利用
生成AIに適切な文章を生成してもらおう	生成 A 質の高い志望理由が短時間で作成できる 本人の実績や考えと乖離したものが作成される可能性がある	B 本人を確認しながら適切な志望理由が作成できる
生徒が文章を起こすためのヒントや文章を深めるためのアドバイスをしてもらおう	サポート C 生徒自身で志望理由の内容を深めることができる アドバイスが適切でない可能性文書の作成に時間がかかる	D 異なる視点でのアドバイスができる
すでに書いてある文章に対して、中身は変更せず添削のみしてもらおう	添削 E 迅速にフィードバックを得ることができる 誤添削のリスク	F 添削時間を大幅に短縮できる 添削モレを防げる

生成AI利用するメリット・デメリット

メリット：教員→働き方改革や指導の効率化 生徒→志望理由の質の向上、表現力の向上

課題：生徒→結果を鵜呑みにすることによる本人との乖離、考える力の低下(いずれも不適切な利用による)

生成AIが存在することの懸念点

すでに生徒が生成AIを安易に利用しており、生徒がやっていないことや思ってもいないことなど、本人と乖離した不適切な志望理由書を作成している可能性がある。これまでの履歴書点検ではチェックできない。

プロンプト例 パターンC・D <志望理由書をより具体的に考えさせるための質問>

```
#指示
-ユーザーが入力する#志望理由書の抽象的な面において、ユーザーにより具体的な志望理由書を作らせるための質問をして。
#志望理由書
-〔志望理由書を入力〕

#改善例
-具体例を挙げる。抽象的な表現を選び、具体的な経験や行動を詳しく説明します。
例：「貴重な経験をしました」→「フィジコンでの2週間のポランド活動で、現地の子どもたちに英語を教えました」
-数字や事実を用いる。可能な限り、具体的な数値や客観的な事実を添えます。
例：「多くの時間を費やしました」→「週5日、1日2時間の練習を3年間継続しました」
-自分の成長や変化を明確に示す。経験を通じてどのように変化したが、何を学んだかを具体的に述べます。
例：「視野が広がりました」→「異文化への理解が深まり、自国の文化を客観的に見る視点に身につきました」
-感情や思考のプロセスを描写する。単なる事実だけでなく、その経験を通して感じたことや考えたことを表現します。
例：「勉強が楽しくなりました」→「複雑な問題が解けた時の達成感や、知識が実生活に応用できる喜びを感じました」
-学びを将来にどう活かすかを説明する。経験から得た学びを、志望校でどのように活かし、さらに発展させたいかを明確に述べます。
例：「科学に興味があります」→「化学実験を通じて環境問題に関心を持ち、貴校の環境科学プログラムで持続可能な社会の実現に向けた研究に取り組みたいです」
-因果関係を明確にする。単に事実を羅列するのではなく、ある経験がどのように次の行動や考えにつながったかを説明します。
例：「英語の勉強に力を入れました」→「海外ボランティアでの経験から英語の重要性を実感し、帰国後は毎日1時間の英語学習を継続しています」
-志望校との関連性を示す。自分の経験や目標が志望校の特色や理念などどのように結びつくかを説明します。
例：「貴校で学びたいです」→「貴校の充実した国際交流プログラムを通じて、ポランド活動で芽生えた国際協力への興味をさらに深めたいと考えています」
```

プロンプト例 パターンE <志望理由書の文法の添削 生徒向け>

```
#指示
-ユーザーが入力する#志望理由書において、ユーザーにより文法や語彙の正確さ、論理の流れ、説得力の強化に重点を置いて修正案を提示して。
-修正案を提示するとともになぜそのように修正したか、解説もして。
#志望理由書
-〔志望理由書を入力〕

#改善例
-助詞（は、が、を、に、で、の、など）が正しく使われているか確認します。
例：「私は本を読んだ。」→「私が本を読んだ。」
-日本語の語順が正しいか、特に修飾語と被修飾語の位置が適切か確認します。
例：「私は美しい青い空を見た。」→「私は青い美しい空を見た。」
-一文が長すぎないか、適切な場所で句読点を打って区切られているか確認します。
例：「私は今日学校に行き、そこで友達と会って、話をしました。」→「私は今日学校に行きました。そこで友達と会って、話をしました。」
-日本語特有の主語の省略が、文脈から明確であるか、または省略が適切でない場合に補われているか確認します。
例：「彼は学校に行ったが、帰らなかった。」→「彼は学校に行きましたが、帰らなかった。」
-文脈に合った正しい語彙が選ばれているか確認します。
例：「この問題は難しい。」→「この問題は複雑だ。」
-誤字脱字がないか細かくチェックします。
例：「私わ学生です。」→「私は学生です。」
-繰り返しや冗長な表現がないか確認します。
例：「今は頑張、忙しです。」→「今は、忙しいです。」
-各段落が明確な主題を持ち、その主題に基づいて展開されているか確認します。
例：「そのため、私は努力する。」→「その結果、私は努力することを決めました。」
-同じ表現や内容が無駄に繰り返されていないか確認します。
例：「私は、私は会いに行きました。」→「私は会いに行きました。」

#出力例
修正前：これによって、部活動で自分から学びに行くことを得ました。
修正案：これにより、主体的に学ぶことの重要性を実感しました。
推奨理由：主体的な姿勢を強調しました。
```

生徒向けと教員向けの違い

教員向けは、一度に全体を修正した修正案を提示します。生徒向けは、一行ずつの修正案の提示をそう言った理由を示してくれます。一行ずつ示すことで、修正をただのコピペ作業にさせない目的があります。しかし、教員向けの方がよい修正案を提示してくれます。(理由はわからないけど)

プロンプト例 パターンF <志望理由書の文法の添削 教員向け>

```
#指示
-ユーザーが入力する#志望理由書において、ユーザーにより文法や語彙の正確さ、論理の流れ、説得力の強化に重点を置いて修正案を提示して。
-修正案を提示するとともになぜそのように修正したか、解説もして。
#志望理由書
-〔志望理由書を入力〕

#改善例
-助詞（は、が、を、に、で、の、など）が正しく使われているか確認します。
例：「私は本を読んだ。」→「私が本を読んだ。」
-日本語の語順が正しいか、特に修飾語と被修飾語の位置が適切か確認します。
例：「私は美しい青い空を見た。」→「私は青い美しい空を見た。」
-一文が長すぎないか、適切な場所で句読点を打って区切られているか確認します。
例：「私は今日学校に行き、そこで友達と会って、話をしました。」→「私は今日学校に行きました。そこで友達と会って、話をしました。」
-日本語特有の主語の省略が、文脈から明確であるか、または省略が適切でない場合に補われているか確認します。
例：「彼は学校に行ったが、帰らなかった。」→「彼は学校に行きましたが、帰らなかった。」
-文脈に合った正しい語彙が選ばれているか確認します。
例：「この問題は難しい。」→「この問題は複雑だ。」
-誤字脱字がないか細かくチェックします。
例：「私わ学生です。」→「私は学生です。」
-繰り返しや冗長な表現がないか確認します。
例：「今は頑張、忙しです。」→「今は、忙しいです。」
```

＜校務利用＞ ①進路指導における生成AIの活用

◆ 工夫点

- 進路指導への利用を強制するのではなく、先生方の生成AIの理解に合わせて、選択していただいた。
- 参考となるプロンプトを事前に提示した。

◆ 活用効果

進路活動の生成AI活用【生徒】
3年次生 203人回答 複数選択

生成AI進路活用	人数(%)
下書きの生成	31(15%)
記述内容の相談	48(24%)
文書の添削	47(23%)
活用していない	115(57%)

進路活動の生成AI活用【教員】
36人回答 複数選択

生成AI進路活用	人数(%)
A:下書きの生成(生徒)	2(5%)
B:下書きの生成(教員)	1(3%)
C:考え方の補助(生徒)	4(11%)
D:考え方の補助(教員)	5(13%)
E:文書の添削(生徒)	4(11%)
F:文書の添削(教員)	12(31%)
活用していない	22(58%)

教員の感想

- ・ 自分では気付けないミスや新しい視点を教えてもらえるところが、文章の添削で特にありがたいと感じます。
- ・ 誤字・脱字・文章校正などの一回目のチェックをするだけでも非常に負担軽減となった
- ・ 生徒があまり深く考えずに言葉を選んでる感じはした。指摘すると自分でもしっかり言葉を選択できていなかったことに気づき、志望理由をさらに深めることができた。最も時間がかかる言語化する部分と、それを「読める日本語」まで推敲する部分を代わりにやってくれるので、余計な指摘（日本語がおかしいなど）に時間を取られず、深い話ができたと感じた。ただ、これは面談ありきだと思う。
- ・ 生徒がわからないことがあると生成AIを使って答えを出そうとしますが、答えの深まりが不十分なところに一手間かけるように仕向ける必要がありました。
- ・ 生徒から出てきた直後のよくわからない文章を読むことができる状態に校正してくれるところがよい。
- ・ どんなプロンプトを書けばよいかわからなかった。(生成AI未利用)
- ・ 生成AIを活用せずとも指導ができ、自分の思考をAIに頼りすぎるのは良くない。(生成AI未利用)

志望理由書への生成AIの活用 成果と課題

- ◆ 生徒の考えを深めつつ、教員の業務負担の軽減につながった。
 - 生徒がいちから文章を起こすのではなく生成AIに相談することで、自分の表現したいことが明確になった。
 - 生徒の添削指導においては、時間短縮にとっても効果がある。
- ◆ 生徒が利用するには適切なフォローや指導は欠かせない。
 - 生成AIの適切な利用ができていない生徒も一定数いる
- ◆ 生成AIを利用していることを前提とした指導が必要である。
 - 生徒が教員の指示がなくとも志望理由書に生成AIを利用している状況が見受けられた。
 - 直接生徒に確認するなど、一人一人に寄り添った丁寧な指導が求められる。